



kaminorippo.org

神の律法：付録5：安息日と教会に行く日、2つの異なるもの

教会に行く日は何ですか？

礼拝のための特定の日の戒めはない

この研究を始めるにあたり、要点を直ちに明らかにしましょう：神からキリスト教徒がどの日に教会に行くべきかを示す戒めはありませんが、彼が休息すべき日を定める戒めがあります。

キリスト教徒はペンテコステ派、バプテスト、カトリック、長老派、あるいはその他の宗派に属していても、日曜日や他の日に礼拝や聖書研究に参加することができますが、それが神が定めた休息の日である7日目から彼を免除するものではありません。

礼拝はどの日でも可能

神は地上の彼の子らがどの日に彼を礼拝すべきかを決して規定していません：土曜日でも日曜日でも月曜日、火曜日などでもありません。

キリスト教徒が祈り、賛美、研究で神を礼拝したいと思う日は、独りで、家族と一緒に、あるいはグループで、どの日でもそうすることができます。彼が兄弟たちと集まって神を礼拝する日は、第4の戒めとは何の関係もなく、父、子、聖霊である神から与えられた他のどの戒めとも関連していません。

7日目の戒め

休息が焦点であり、礼拝ではない

もし神が本当に彼の子らに安息日(または日曜日)に**幕屋**、**神殿**、または教会に行くことを望んでいたならば、彼はその重要な詳細を戒めの中で明らかに述べていたでしょう。

しかし、以下で見るように、それは決して起こりませんでした。戒めは、我々が働いたり、誰か—even動物さえも—toその日、神が聖別した日に働くことを強制してはならないとだけ述べています。

神が7日目を区別した理由は何ですか？

神は聖書の多くの箇所では安息日を聖なる日(分離され、聖別された)と述べており、創造の週に始まります: 「そして神は7日目に彼が行った仕事を完成させ、その日、彼が行ったすべての仕事から休息した[ヘブライ語 שַׁבָּת (Shabbat) 動詞 止める、休息する、やめる]。そして神は7日目を祝福し、それを聖別した[ヘブライ語 קָדֹשׁ (kadosh) 形容詞 聖なる、聖別された、分離された]、なぜならその日に彼が創造し行ったすべての仕事から休息したからである」(創世記2:2-3)。

安息日の最初の言及で、神は後に我々にさらに詳しく与える戒めの基礎を築きました。それは:

1. 創造者はこの日をそれに先行する6日(日曜日、月曜日、火曜日など)から分離しました。
2. 彼はこの日に休息しました。我々は明らかに、創造者が休息を必要としないことを知っていません、なぜなら神は霊であるからです(ヨハネ4:24)。しかし、彼は人間の言語を使い、神学で擬人法として知られている方法で、彼が地上の子らに7日目に何を期待しているかを理解させました: 休息、ヘブライ語でシャバトです。

安息日と罪

7日目が他の日から聖別(または分離)されたという事実が人類の歴史の非常に早い段階で起こったことは重要です。なぜなら、それが創造者が我々にこの特定の日、特に休息することを望んでいることが罪と結びついていないことを明確にしているからです。なぜなら、その時地上にはまだ罪が存在していなかったからです。これは天国や新しい地球でも、我々が7日目に休息を続けることを示しています。

安息日とユダヤ教

また、これはユダヤ教の伝統ではないことにも注意します。なぜなら、ユダヤ人を生み出したアブラハムは数世紀後に登場するからです。むしろ、これは地上の彼の真の子らにこの日の彼の行動を示し、我々が父を模倣できるようにするためのものです。イエスがそうしたように: 「まことに、まことに、あなたがたに言う。子は自分からは何もできず、父がしているのを見る以外にはできない。父がすることを、子もまた同様に行うのだ」(ヨハネ5:19)。



7日目までに神は彼が行っていた仕事を終え、7日目にすべての仕事から休息しました。そして神は7日目を祝福し、それを聖なるものとし、なぜならその日に彼が創造したすべての仕事から休息したからです。

第4の戒めのさらなる詳細

創世記における7日目

これは創世記における言及であり、創造者が7日目を他のすべての日から分離し、これが休息の日であることを明確にしています。

これまで聖書の中で、主は前日に創造された人間が7日目に何をすべきかについて具体的ではありませんでした。選ばれた民が約束の地への旅を始めた時になって初めて、神は7日目についての詳細な指示を与えました。

異教の地で400年間奴隷として暮らした後、選ばれた民は7日目に関する明確化が必要でした。これが神自身が石の板に書いたもので、誰もがこれが神からの命令であり、人間からのものではないことを理解するようにしたのです。

第4の戒めの全文

神が7日目について書いたものを全文で見ましょう:

「安息日[ヘブライ語 *שַׁבָּת* (*Shabbat*) 動詞 止める、休息する、やめる]を覚えて、それを聖別する[ヘブライ語 *קָדַשׁ* (*kadesh*) 動詞 聖別する、奉献する]。6日間は働いて、あなたのすべての仕事をする。*מְלָאכָה* (*m'larrá*) 名詞 仕事、職業]、しかし7日目[ヘブライ語 *יְשִׁבְתָּ דִּי* (*uma shivi-i*) 7日目]はあなたの神、主のための休息である。その中ではあなたも、あなたの息子も、娘も、男性の僕も、女性の僕も、動物も、あなたの門の中にいる見知らぬ者も、仕事をしてはならない。なぜなら、主は6日間で天と地と海とその中のすべてのものを作り、7日目に休息したからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、それを聖別した」(出エジプト記20:8-11)。

なぜ戒めが「覚える」という動詞で始まるのか？

既存の慣習のリマインダー

神が戒めを「覚える」という動詞[ヘブライ語 *זָכַר* (*zakar*) 動詞 覚える、思い出す]で始めた事実は、7日目に休息することが彼の民にとって新しいものではなかったことを明確にします。

エジプトでの奴隷の状態のために、彼らはしばしば、あるいは正しい方法でそれを行うことができませんでした。また、この戒めが民に与えられた10の戒めの中で最も詳細であり、戒めに捧げられた聖書の節の3分の1を占めていることにも注意してください。

戒めの焦点

この出エジプト記の箇所について長く話すこともできますが、この研究の目的に焦点を当てたいと思います：第4の戒めには神を礼拝すること、一箇所に集まって歌ったり祈ったり聖書を勉強することに関連するものは何も述べられていないことを示すことです。

彼が強調したのは、この日、7日目を彼が聖別し、休息の日として区別したことを我々が覚えておかなければならないということです。

休息はすべての人に必須

7日目に休息するという神の命令は非常に重大であり、彼は戒めを我々の訪問者(外国人)、従業員(僕)、さらには動物にまで拡張し、この日には世俗的な仕事が一切許されないことを非常に明確にしました。

安息日における神の業、基本的なニーズ、親切な行為

安息日に関するイエスの教え

我々と共にいた時、イエスは地上における神の業に関連する行為(ヨハネ5:17)、食べるなどの基本的な人間のニーズ(マタイ12:1)、他人への親切な行為(ヨハネ7:23)が、7日目に行われても第4の戒めを破ることなく行われるべきであると明確にしました。

神に休息し、楽しむ

7日目に、神の子は自分の仕事から休息し、天にいる父を模倣します。彼はまた、神を礼拝し、その律法を楽しむのですが、それは7日目だけでなく、週の毎日です。

神の子は父が教えたすべてのことを愛し、喜んで従います：

「祝福された人は、悪者の助言に従わず、罪人の道に立たず、嘲る者の席に座らず、主の律法に喜びを見出し、その律法を昼夜瞑想する人である」(詩篇1:1-2; 参照: 詩篇40:8; 112:1; 119:11; 119:35; 119:48; 119:72; 119:92; ヨブ23:12; エレミヤ15:16; ルカ2:37; 1ヨハネ5:3)。

イザヤ58:13-14の約束

神は預言者イザヤを彼の代弁者として用い、安息日を休息の日として従う者に聖書の最も美しい約束の一つを与えました：

「もしあなたが安息日を汚すことから足を遠ざけ、私の聖なる日に自分の意志を行わず、安息日を喜び、主の聖なる栄光あるものと呼び、彼を尊び、自分の道をたどらず、自分の意志を求めず、無駄な言葉を語らないなら、あなたは主に喜びを見出し、私はあなたを地の高いところに乗せ、あなたの父ヤコブの遺産であなたを支える。主の口がこれを語ったからである」(イザヤ58:13-14)。

安息日の祝福は異邦人にも与えられる

異邦人と7日目

7日目に関連する美しい特別な約束は、神の祝福を求める者に与えられます。同じ預言者に対し、主はさらに進んで、安息日の祝福がユダヤ人に限定されないことを明確にしました。

安息日を守る異邦人への神の約束

「そして主に仕え、主の名を愛し、その僕となるために主に加わる異邦人 [גֵּרִים *nfikhār* (見知らぬ者、外国人、非ユダヤ人)]、安息日を汚さずに守り、私の契約を受け入れるすべての者に、私は彼らを私の聖なる山に連れて行き、私の祈りの家で彼らを喜ばせ、彼らの焼き尽くす供え物と犠牲は私の祭壇で受け入れられる。私の家はすべての民のための祈りの家と呼ばれるからである」(イザヤ56:6-7)。

土曜日と教会活動

7日目の休息

従順なキリスト教徒、メシアニック・ユダヤ人であれ異邦人であれ、7日目に休息します。なぜなら、これが主が彼に休息するよう指示した日であり、他の日ではないからです。

もしあなたがグループで神と交流したい、またはキリストの兄弟姉妹と共に神を礼拝したいと思うなら、機会があるときはいつでもそうすることができます。それは通常日曜日に起こり、また水曜日や木曜日に多くの教会が祈り、教義、癒し、その他の奉仕を行う時にもあります。

土曜日のシナゴグへの参加

聖書時代および現代の正統派ユダヤ人の両方が土曜日にシナゴグに参加するのは、第4の戒めに服従してこの日に働かないため、明らかにその方が便利だからです。

イエスと安息日

神殿への定期的な参加

イエス自身も土曜日に定期的に神殿に参加していましたが、7日目に神殿に行くことが第4の戒めの一部であると示唆したことは一度もありません—なぜなら単にそうではないからです。



西暦70年にローマ人によって破壊される前のエルサレム神殿の模型。イエスは定期的に神殿やシナゴグで参加し、説教しました。

イエスは安息日に魂の救いのために働いた

イエスは週7日、父の業を成し遂げるために忙しくしていました：

「私の食べ物」とイエスは言いました、「私を送った方の意志を行い、その業を完成させることです」(ヨハネ 4:34)。

また:

「しかしイエスは彼らに答えました、『私の父は今まで働いておられ、私も働いています』」(ヨハネ5:17)。

安息日には、彼は神殿で王国メッセージを聞く必要のある最も多くの人々をよく見つけました:

「彼は育ったナザレに行き、安息日に彼の習慣通りシナゴグに入り、読むために立ち上がりました」(ルカ4:16)。

イエスの教え、言葉と模範を通じて

キリストの真の弟子はあらゆる面で彼の人生を模範とします。彼は我々が彼を愛するなら、父と子に服従するべきであると明確に示しました。これは弱い者に対する要求ではなく、神の王国に目を固定し、永遠の命を得るために必要なことは何でもする覚悟のある者に対するものです。たとえそれが友人、教会、家族からの反対を引き起こすとしても。髪と髭、ツイット、割礼、安息日、そして禁じられた肉に関する戒めは、ほぼすべてのキリスト教徒によって無視されており、群衆に従うことを拒否する者は、イエスが我々に語ったように、確実に迫害されるでしょう。神への服従には勇気が必要ですが、その報酬は永遠です。